

## I. 授業の概要

この科目は教育学部3年生向けの専門教育科目である。現代世界を特徴づけるキーワードの1つはグローバル化であり、国家間の相互依存度は深まりつつある。新しい世界像に対する理解はますます重要になっている。講義では主題図を用いながら、世界の地誌を読み解く方法をいくつかの国や地域を事例地域として探る。国際化の時代に必要とする地理的教養を身につけることは目的である。なお、この科目は課程認定科目である。

この授業の到達目標は次の通りである。①知識・思考：世界の主な地域の地域特色を理解すること、②技能・表現：様々な主題図を読み解く力を高め、それぞれの国の地域の特徴を説明できること、③意欲・関心・態度等：地理情報を積極的に集め利用すること、である。

関連するディプロマ・ポリシー(DP)は、教育と教職に関する確かな知識と、得意とする分野の専門的知識を修得している(知識・理解)、教育現場で生じているさまざまな現代的諸課題について、専門的な知見をもとに、その対応方策を理論に基づいて総合的に考え、その過程や結果を適切に表現することができる(思考・判断・表現)、教師としての使命感や責任感を持ち、自己の課題を明確にして理論と実践とを結びつけた主体的な学習ができ、自主的に社会に貢献しようとする(関心・意欲・態度)。

授業は主題図を用いながら、世界の地誌を読み解く方法を学ぶ。グローバルの時代に必要とする地理的教養や地域情報を身につけることは狙いである。そのため、世界の地誌を概観する同時に、いくつかの国や地域を事例地域としてさまざまな地域問題を取り上げる。

なお、目まぐるしく変貌している世界各地の出来事から、本講義の目的にあったトピックを授業内容に追加することがあった。

授業の内容と計画は次の通りであった。第01回 ガイダンス Introduction、第02回 世界の自然環境(地形、気候) Physical Geography of World、第03回 世界の人口と

農業 Population and Agriculture、第04回 世界の都市と産業 City and Industry、第05回 様々な世界地図を読む Thematic Maps of World、第06回 アジア(1)Regional Geography of Asia (1)、第07回 アジア(2) Regional Geography of Asia (2)、第08回 ヨーロッパ Regional Geography of Europe、第09回 北アメリカ Regional Geography of North America、第10回 南アメリカ Regional Geography of South America、第11回 アフリカ Regional Geography of Africa、第12回 オセアニア Regional Geography of Oceania、第13回 世界の中の日本 Japanese culture in the World、第14回 日本の中の世界 Connection between Japan and the Regions of the World、第15回 まとめ・期末試験 Review and Final Exam。

## II. 授業評価の方法と結果

2020年1月22日(水)に授業評価に関するアンケート調査を行なった。履修者15名のうちに13名から回答を得た。各設問に関して、①そう思う、②どちらかといえばそう思う、③どちらとも言えない、④あまりそう思わない、⑤そうは思わない、の5つの選択肢から選んで答えてもらった。なお、以下では紙面の関係で、集計結果から回答者が0名の選択肢を省いた。単位は人である。

### 1. この科目を履修した理由

①シラバスの内容で判断した	4
②科目名で判断した	7
③時間割の都合で判断した	1
⑤その他	1

### 2. 授業で行われた GeoActivity は授業内容の理解に有効であるか。

①そう思う	8
②どちらかといえばそう思う	5

### 3. パワーポイントなどの字や図表の表現は適切でしたか。

①そう思う	9
②どちらかといえばそう思う	4

### 4. 教員は、学生が質問や意見を述べられるように配慮しましたか。

- ①そう思う 8  
②どちらかといえばそう思う 5  
5.配布資料、地図帳、教科書などの教材は適切でしたか。

- ①そう思う 11  
②どちらかといえばそう思う 2  
6.Moodle の活用は効果的でしたか。

- ①そう思う 9  
②どちらかといえばそう思う 4

Ⅲ. 授業評価では、記述内容として、次のことを聞いた。「新学習指導要領で、地理の授業における「日本と世界のつながり」の視点を強調されている。この授業では、「日本のなかの世界」、「世界のなかの日本」などの調査・発表を通じて、あなた（将来の教員）にとって、①資料収集・資料調査の能力はどのように向上したか、②教材への理解はどのように深めたか、以上の2点を述べなさい。」

これに対して、多くの回答があったが、代表的なものを列挙しておく。

「①同じ内容でも、いくつもの資料を調べるなどして、総合的に内容を判断することができる点で向上したと思います。②日本が世界からどう観られているか、どのような立ち位置にいるのか、実際日本に住んでいるだけでは分からないことまで理解することができたのではないかと感じています。」

「①欲しい資料などをどのように探しているのか、またどれが使えるものなのかを取捨選択しながら上手く活用し調査していく能力が向上したと思いました。この能力はこれからの将来にもとても役立つものだと考えるので、さらに伸ばしていきたいと思います。②日本の中の世界を調べたのですが、教材への理解はある程度深めることはできたと考えます。ですが、調べでも自分が求めていたものではなかったりしたことがあり、本などを活用していくことも大事だなと考えました。教材は深めれば深めるほど面白いことがわかると思うので、どんどん理解して深めていくことが大事だなと改めて思いました。」

「①地図の活用方法やアクティビティを通して、どのように活用すべきかを知ることができ、向上させることができた。②地理学に対しての教材の理解は深まったが、まだ知識不足のところもあるので、これからの教材研究の際にはしっかりと行いたい。」

「① 様々なデータをもとに、受け手に伝え

るためにはどのようなデータを良いのかを吟味しながら収集して、活かすことができるようになった。さらに、数字や文字だけでなく、写真や映像というような視覚的な情報を取り扱うことができた。②世界の国々の様子を、様々な観点から、日本と比較しながら、捉えることができた。また、それを他者にもわかりやすくまとめ、伝えようとすることができた。」

「①資料収集や資料調査をする中で情報を取捨選択し、生徒が興味を持てる内容を取り上げるようにした。また集めた資料を生徒が理解しやすい形で提示するように自分で整理出来るようになった。②自分が気になっているテーマやこれが面白いのではないかと思うテーマについて様々な観点から調べることによって、これまで、日本とは関わりが少ないのではないかと思って国々が意外な形で日本と関わっていることを知ることができ、自分の思考の幅を広げることができた。」

「①複数の情報から取捨選択して資料収集できるようになったと思う。また、様々なデータを比較しながら適当なものを選んできた。②授業や配布資料をもとに理解を深めた。今まで地理の学習は多くやってきたけど、世界の中の日本などという風に比較しながらや、客観的に日本を見てと言うふうに学習したことはあまりなかったのですごくためになった。パワーポイント作りの際に資料収集の効率的な仕方が分かった気がする。教材への理解はこの授業を通じて、グラフや過去のデータなどから読み取るというのが少し上手になった気がする。」

#### Ⅳ. 次年度の改善点

以上のように、授業は概ね当初の目的を達した。

学校現場での新学習指導要領が実施され、教員を目指している学生に対して専門領域の学習を更に求められる。この授業では「日本と世界のつながり」を取り上げて、その学習を深める工夫を試みた。受講生からの感想にもあるように、対応しなければならない課題が多い。来年度では、イメージしづらい世界地誌の内容を身近な「日本の中の世界」の事例を多く調査し、教材化できる素材として授業づくりに努めたいと思う。